

## 1 市の概要

人口	65,225 人
保護率	1.25 %

## 2 支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当たり(件)	一月当たり	16.2
プラン作成件数人口10万人当たり(件)	一月当たり	0.9
就労支援対象者数人口10万人当たり(件)	一月当たり	0.6
就労・増収率(%)		120.0

## 3 実施方法について

実施方法	委託（単年契約・随意契約）
事業費	661千円（平成30年度）
理由（委託）	○社会福祉士等の専門的資格を有する者が対応できるとともに、生活福祉資金等の貸付業務を行っていて従前から家計の相談に対応した実績があることなどから、相談者に対して有効な支援ができると考えたため。
事業概要	○週2回、市社会福祉協議会から市役所内に設置されている「ひた生活支援相談センター」に家計改善支援員が来庁し、業務に当たっている。 生活困窮者の中には収入はあるものの、考えながら支出を行うことができない方がいるため、相談者の家計の状況を明らかにし、相談者とともに家計改善に向けて収支の見直しを行い、収入に見合った支出ができるよう支援する。 ※ひた生活支援相談センター：常駐3名 （主任相談支援員、相談支援員、就労支援員各1名ずつ） ※家計改善支援員1名
その他特記事項	○週2回であるものの、曜日に縛られず、必要に応じて来庁を行うよう柔軟な体制を取っている。

## 4 事業実績（H30年度）

事業利用者数（支援決定）	家計の改善	税・料の滞納状況の改善
1	1	1

## 5 事業実施のポイント ～家計を見直すことから～

### Point

○家計診断シートに現在の収入と支出の内訳を書き込む。次に世帯構成を基に、収入額に対する理想的な支出割合に沿って金額を記入して比較することで、見直しが必要な項目を自覚する。

### 収支を整理して、家計への意識を高める

- 家計診断シートを使い、毎月の収支と理想の支出について記入してもらう。
- 実際の支出で見直すものは何かを一緒に話し合いながら、優先順位を決めて取り組む。
- 現状の確認をしながら、立て直しを行う。



### （利用者とその家族の声）

○生活福祉資金の借入れをしたが、計画通りに償還をすることが可能になるとともに、収入と支出について意識するようになった。  
○滞納していた税金があったが、給料日に諸々の支払いをするようにしたら、家計が回せるようになり、滞納も処理できたのでホッとした。今後は預金ができるようにしたい。

## 6 取り組んで良かったこと

○収入に見合った支出ができないために、家計を管理できない利用者も多く、家計に対する意識を高めることで、自立支援への効果があった。